

商店街探訪

大口通④(横浜市神奈川区)

空き店舗対策試み
魚屋カフェで活気



「魚屋カフェ濱の市」の前に立つ坪倉さん(左)と仲間たち=横浜市神奈川区

びかびか光るまなざしにコフモテ風の坊主頭。古いコンビニ跡地を、にぎやかな「魚屋カフェ濱の市」に変えた坪倉良和さん(60)は、あっという間に商店街の顔になった。

本業は横浜中央卸売市場の水産仲卸。スーパーの台頭で衰退する市場で、夕市やライブもやってみた。でも市場の存在意義は、そんなことより一次生産者と小売店を支えることだと思い直した。そんな時、横浜商大の佐々徹教授に大口通の空き店舗を紹介された。2009年末から八百屋などをやった末、今年8月に戸口を取って全面改装。手前で鮮魚や干

物を売り、丸見えの奥では定食などを出す。店内は全国各地の名産品を紹介するアンテナショップや、三味線や落語のライブ会場にもなる。奥村道利店長(43)らは「街の元気は魚屋から」という坪倉さんの意を受け、道行く人に「いらっしやい！」と明るく声をかける。この街に乏しかった活気が、店の周囲には漂う。「2千万円ほどつき込んだ。でもゼニカネじゃない」と笑う坪倉さんは、イベントに周囲を巻き込みたかった。でも2代目、3代目ばかりの商店街に排他的な雰囲気を感じ、まず自ら一番の繁盛店に

なるとう方針転換。「結果を出せばよそもついてくるでしょ。外圧で街を変えますよ!」

とは言え、シャッター増加は止まらない。よそ者に居座られるのを心配し、廃業後も店を貸したくない人が多いのだ。そこで商店街協同組合は今年、空き店舗を借り受け、期間限定で安くまた貸しを始めた。

元書店でアウトレット家具店を始めた村野良和さん(54)は、両親がこの商店街の家具屋だった。自分は卸商になったので、久しぶりの対面販売が楽しいという。期間限定じゃ客が不安だろうと、アフターサービスは組合理事長の荒川実さんが家具屋仲間のよしみで引き受けた。

閉鎖性にもつながるが、この結束は強み。組合は来年から空き店舗の運営を全部引き受けようか、一坪貸しも始めようか、と次の手を検討中だ。

前理事長の鈴鹿市郎さんは、最近できた「家系」ラーメン店を応援している。「若者向きの店をこの大口通でやりたいって来てくれたんだよ。うちの布団屋にチラシを置いたっていい。新しい仲間を応援するのも商店街ですよ!」

次回は法政通り商店街(川崎市中原区)です。(織井優佳)

為替差損 前年比44%増

県内89社7~9月期 浜銀総研分析

製造業は8割増

浜銀総合研究所は県内に本社を置く上場企業(新興市場、金融などを除く)89社の2011年7~9月期連結決算の分析結果を発表した。歴史的な円高の影響で、製造業を中心に為替差損の総額が前年同期比44%増の114億円まで膨らんでいたことがわかった。

浜銀総研が調査を開始した06年4~6月期以降で2番目の水準。これまでの過去最高はリーマン・ショック直後の08年10~12月期で、為替差損は121億円に達した。このうち製造業は8割増の100億円に達した。分析によると、円高の影響で、製造業の輸出が7.5%減の331.9億円と大きく落ち込んだ。中国向けが6カ月ぶりに、東南アジア諸国連合

横浜港、10月の輸出1.5%減

前年比 アジア向け落ち込む

横浜税関が発表した貿易速報によると、横浜港の10月の輸出額は598.1億円。前年同月より1.5%減った。減少は2カ月ぶり。円高や中国の金融引き締め策、タイの洪水の影響に加え、震災後に物流網の見直しが進み、東京港や清水港(静岡県)など工場に近い港から輸出する企業が増えたことも一因という。



輸入品の検査をする横浜税関の職員。横浜港、税関提供